

## 地域防災力の向上へ 消防機械器具を更新

消防機械器具配置式は2月26日、市総合防災センターで行われ、本田市長から井手純消防団長に配置書が交付されました。市は市総合計画に基づく災害に強いまちづくりの構築を目的に、老朽化した器具の更新を随時進めています。本年度更新した器具と配置された分団部は以下のとおりです。

- ◎小型動力ポンプ…7分団5部(青笹町)、8分団5部(上郷町)
- ◎小型動力ポンプ積載車…1分団1部(上組町)、9分団3部(宮守町宮守)



更新され新たに配置された小型動力ポンプとポンプ積載車



## 早池峯神社神門の修復工事が完了

市指定文化財「早池峯神社神門」の屋根葺替工事が1月に完了しました。昨年9月から工事が開始され総事業費は約2,200万円。修復にあたり、早池峯神社を守る会(角田幸四郎会長)が寄付金を募り、市内外から約1,650万円が寄せられました。

今後、同じく市指定文化財の早池峯神社中門、拝殿も工事を予定しており、寄付金を募っています。ご協力よろしくお願います。

◎問い合わせ 早池峯神社を守る会事務局(0198-64-2455)

## 自衛隊入隊予定者を関係者で激励

4月から自衛隊に入隊する予定の角城雅哉さん(20歳)=松崎町=と宮守涼さん(18歳)=大工町=の2人の激励会は2月8日、市役所とびあ庁舎で行われ、市や自衛隊の関係者から激励の言葉と記念品が贈られました。

角城さんは「体力面や精神面を鍛え、非常事態に備えたい」と、宮守さんは「一日も早く現場で活躍したい」とそれぞれ意気込みを語りました。2人は3カ月間の訓練を経て、青森、岩手、宮城のいずれかの部隊に配属される予定です。



抱負を述べる角城さん(右)と宮守さん



早期完成へ協力を確認し合う関係者

## 希望・絆・未来をつなぐ立丸峠 早期完成願いの住民大会開催

国道340号立丸峠トンネルの整備決定住民大会は2月16日、あえりあ遠野交流ホールで開催されました。参加した本市や宮古市、住田町、大槌町などの住民や関係者ら320人は、早期完成に向け心一つにしました。

立丸峠は震災時交通の要となりましたが、急カーブが多いほか、幅がせまく交通の難所、早期の整備が求められていました。トンネルは延長約4.9キロで、事業費は85億7千万円。整備は平成24年度に開始し、平成30年度には開通予定です。

い、復興や交流、産業振興を後押しする道路となることを願う」と思いを込めました。

第三セクターなど、市が関係する機関や団体の見直しを行う「第12回市進歩まちづくり検証委員会」(委員長・山田晴義)は2月20日、とびあ庁舎で開催されました。出席した8団体はこれまでの取り組みを報告し、今後も改革に取り組むことを誓いました。

までの検証結果を受け、団体同士で研修会の企画や人事交流の検討をするなど、自主的な行動が見られている。今後も継続的に取り組んでほしい」と、山田委員長は「検証結果が活かされており、ありがたい。今後もまちづくりを進めてほしい」とそれぞれ期待を込めました。



各団体の取り組みにアドバイスをする検証委員

## 各団体が改革の進捗状況報告 まちづくり検証委員会開催

体の一部民営化などの経営改革に努めてきました。今後も各団体の改革を継続的に支援していきます。

## お急ぎください！ インターネット工事費補助は3月末まで！

遠野テレビインターネットの宅内配線工事費の補助(上限15,000円)が3月末で終了します。加入を希望する人はお早めに手続きをお願いします。

- ▷補助対象 3月末までにインターネット接続サービスの宅内配線工事が完了した人
- ▷初期費用

種類	新規加入する場合	テレビ契約者が加入する場合
加入金	63,000円	不要
宅内配線工事費	実費(平成24年度に限り15,000円を上限に補助)	

▷月額使用料

種類	インターネットのみ加入する場合	テレビ契約者が加入する場合	備考
インターネット	接続A(1Mbps)	2,350円	2,250円
	接続B(2Mbps)	2,760円	2,660円
	接続C(10Mbps)	3,450円	3,350円
	接続D(30Mbps)	4,200円	4,100円

前納(年払い)の場合は 月額使用料×11カ月

◎問い合わせ ▽補助に関すること…市経営企画部管理情報担当(☎62121111内線300) ▽工事に関すること…遠野テレビ(☎6311711)

## 出産前後の医療に理解深める 周産期医療フォーラム開催

助産師や救急隊のスキルアップのための「いわて周産期医療フォーラムin遠野」は2月3日、あえりあ遠野交流ホールで開催されました。医療関係者ら150人は、出産前後の医療の現状や今後の課題について理解を深めました。



蘇生用の人形を使い、実技指導する田村埼玉医科大学教授



「いーはとーぶ」について説明する小笠原大船渡病院副院長

岩手県周産期医療関係者スキルアップ研修事業の一環として実施。助産師・救急隊セミナーで講師を務めた田村正徳埼玉医科大学総合医療センター小児科教授は、蘇生練習用の人形を使い「座学だけではなく、人形によるコミュニケーションを繰り返すことが必要」と実技の大切さを訴えました。

周産期医療フォーラムでは小笠原敏浩。県立大船渡病院副院長をはじめ、東北大学や福島県立医大の教授がそれぞれの現場での事例を報告。小笠原副院長は、複数の医療機関と情報共有できる県周産期医療情報ネットワークシステム「いーはとーぶ」について、「震災時でも医療関係者同士で情報共有ができ、機能することが分かった。これまでに以上に各機関で連携し合えば、さらに活用できるものになる」と、同システムの可能性について提言しました。